

今月のKEYWORD

『レジリエンス』

resilience = 「回復力」。東日本大震災以降、防災に対する言葉として使われるようになりました。災害など想定外の事態でライフラインなどの機能が一部停止しても、自立的にエネルギー供給が可能な「レジリエンス住宅」という考え方もその一つ。スマートハウスの進化系と捉えられ、非常時の対応力が向上することで普段に近い生活が可能になるというものです。

暮らしの コーディネート ～第19回

もしもの時にも安心な住まい

灾害時の 「安心」を蓄える

ここ数年、日本各地で地震、台風、集中豪雨などの天災が頻繁に起り、その被害の大きさに驚きと不安を感じます。身近な災害を目の当たりにし、改めて考えさせられるのが防災について。「備え」



といえば食料や防災グッズの用意、避難場所の確認などを思い浮かべますが、住まいそのものの「安心」を備えるという考え方から、「レジリエンス（回復力）」にすぐれた住まいが求められるようになってきています。建物の耐久性はもちろん、家具や大型家電の転倒防止、食器棚の扉が開かない工夫、また避難経路を確保したレイアウトなど、災害時への備えがある暮らしが不可欠な時代を迎えてます。

在宅避難」を視野に入れたレジリエンス性の向上も災害への備えの一つと考えられています。例えば、太陽光発電や蓄電池などを設置することで、停電が起こった際にも最低限の家電製品を使うことが可能になりました、エコキューががあればタンクの水を生活用水として使うこともできます。

また、毎年の気候変動による倒壊や浸水、土砂崩れなどのニュースをみて、「我が家は大丈夫?」と不安を感じておられるお客様もいらっしゃると思います。レジリエンスリフレームを考えていただく第一歩として、住まいの健康診断はいかがでしょう?

いざという時も 日常生活を！

在宅避難」を視野に入れたレジリエンス性の向上も災害への備えの一つと考えられています。太陽光発電や蓄電池などを設置することで、停電が起こった際にも最低限の家電製品を使うことが可能になりました、エコキューががあればタンクの水を生活用水として使うこともできます。

また、毎年の気候変動による倒壊や浸水、土砂崩れなどのニュースをみて、「我が家は大丈夫?」と不安を感じておられるお客様もいらっしゃると思います。レジリエンスリフレームを考えていただく第一歩として、住まいの健康診断はいかがでしょう?